

【目的】

本研究では、叱られる相手への信頼感が高い人と低い人とでは、達成動機と叱られ方に違いがあるのか調べる。

【方法】

調査は、千葉県内の大学に在学中の大学生1～4年生127名を対象に、11月22日に授業時間を借りて集団形式で質問紙調査を実施した。用いた尺度は、「達成動機測定尺度」(堀野,1987)、信頼感の質問項目は信頼感尺度(天貝,1995;1997)の「他人への信頼」の項目をもとに自ら作成したもの、叱り方の質問項目は遠藤・吉川・三宮(1991)の叱りことばの表現パターンをもとに自ら作成したものをを使った。調査数は127部、回収したのは117部(回収率92,1%)、有効回答は113部(有効回答率89,0%)であった。

【結果】

「叱られる相手への信頼感」と「達成動機」、「叱られる相手への信頼感」と「叱られ方」14パターン、それぞれについて相関分析をおこなった。「叱られる相手への信頼感」と達成動機の自己充實的達成動機、「叱られる相手への信頼感」と叱られ方の「理由説明」について相関がみられた。

【考察】

自己充實的達成動機については、信頼される人から結果よりも過程について叱られているので、まわりの評価を気にせず、自分なりの方法で最後までやり遂げようとしていると考えられる。また、叱られる相手から自主性と独立性を認められていると考えられる。

理由説明については、理由説明されることで、「この人はよくしてくれた」「この人は信頼できる人だ」と感じると考えられる。

表1 叱られる相手への信頼感と達成動機、競争的達成動機、自己充實的の相関係数

	相関係数		
	平均	SD	信頼感
達成動機	5.58	0.60	0.12
競争的達成動機	4.75	0.94	-0.06
自己充實的 達成動機	5.77	0.60	0.26**

** p < 0.01

	相関係数		
	平均	SD	信頼感
望ましくない行為 の制止	3.54	1.41	-0.05
望ましい行為 の要求	3.41	1.37	0.11
想起	3.19	1.34	0.05
理由説明	3.17	1.40	0.19*
人格に対する評価	2.70	1.51	0.03

* p < 0.05

表2 叱られる相手への信頼感と叱られ方の相関係数